

聖心女子大学 2025(令和7)年度 一般選抜(総合小論文方式2月期) 問題

問1

【資料1】はOECD(経済協力開発機構)が示した、これからの学びの指針を示すOECDラーニング・コンパス2030からの引用です。この資料を読み、以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①を日本語に訳しなさい。

2. 下線部②を日本語に訳しなさい。

3. 空欄 A B C それぞれに当てはまる単語を選択肢の中から1つ選び、記号で答えなさい。

A に入る選択肢：

(a) Expertise            (b) Information            (c) Knowledge            (d) Learning            (e) Memory

B に入る選択肢：

(a) Behaviors            (b) Experiences            (c) Insights            (d) Knowledge            (e) Skills

C に入る選択肢：

(a) Attitudes            (b) Customs            (c) Laws            (d) Opinions            (e) Rules

4. (a) から (e) それぞれの文章について、【資料1】の内容を踏まえて適切である場合○を、適切でない場合×を回答しなさい。

- (a) OECD ラーニング・コンパスは生徒が日々を過ごすためだけでなく、私たちが望む未来を作るために必要な知識、技能、態度、価値観を示すものである。
- (b) OECD ラーニング・コンパスは生徒エージェンシーや変革能力が知識やスキル、態度や価値観の基盤になることを示している。
- (c) OECD ラーニング・コンパスでは、生徒がより良い未来を作るために、新しい価値の創造、緊張やジレンマを生み出すこと、そして、責任を果たすことを挙げている。
- (d) 見通し-行動-振り返りサイクルは、個人の学習に特化したサイクルであり、自らの行動を振り返ることで個人的な幸せを追求することができる。
- (e) ラーニング・コンパスは旅人にとっての羅針盤のように、学習者が自分や自分を取り巻く社会や環境の未来を作るための指針である。

## 問 2

【資料 2】は、日本財団が 2019 年に行なった「第 20 回 -社会や国に対する意識調査-」の一部、および、2021 年のベネッセ総合研究所による「第 4 回大学生の学習・生活実態調査報告書」から抜粋したものである。

- 資料 2-A は 2019 年にインド・インドネシア・韓国・ベトナム・中国・イギリス・アメリカ・ドイツ・日本の 9 カ国で行なった調査の結果である。この調査は各国の 17~19 歳の男女 1000 名（合計 9000 名）を対象にしたものであり、表中の数値は各国で項目 1 から項目 6 の文章に「はい」と回答した人の割合を示す。資料 2-A の内容を踏まえて、(a)~(d) それぞれの文章について正しければ○を、誤っていれば×を回答しなさい。
  - 「自分を大人だと思う」という項目について、日本は「はい」と回答した人の割合が最低であるが、東アジア諸国は欧米の国より低い値をとっている。
  - 「自分は責任のある社会の一員だと思う」という項目について、日本で「はい」と回答した人の割合は 9 カ国で「はい」と回答した人の平均割合の半分にも満たない。
  - 「自分で国や社会を変えられると思う」という項目について、日本は「はい」と回答した人の割合が最低であり、他の 8 カ国でも「はい」と回答した人の割合はばらついている。
  - 「社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している」という項目について、日本で「はい」と回答した人の割合は 9 カ国で「はい」と回答した人の平均割合の半分にも満たない。
- 資料 2-B では 2008 年から約 4 年ごとに日本人大学生 4000 名以上を対象に大学での学習状況や学習への態度について調査した結果が示されている。資料 2-B の内容を踏まえて、(a)~(d) それぞれの文章が正しければ○を、誤っていれば×を回答しなさい。
  - 「単位を楽にとれる授業」を好んだり、「学習の方法」において自ら工夫する態度が年々低くなる傾向が見て取れる。
  - 授業科目を自由に履修することよりも、系統だって学ぶことを重視している学生の割合が大きい。
  - 学生が自らの学習や学生生活について、自らの自主性や責任感よりも、教員や大学の指導や責任に原因を帰属する傾向が高くなってきた。
  - 自らの将来や就職については、大学の指導・支援に頼らず自らの自主性を発揮しようとする学生の割合が大きい。
- 資料 2-A と資料 2-B を見て、あなたが日本の大学生の学習への態度や価値観について気づいたことを 100 字程度で書きなさい。

### 問3

資料3の文章は教育学者で、大学教育におけるアクティブラーニングの専門家である溝上慎一による「社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー」の一部である。

1. 下線部(ア)の三つの対話に関する説明の文章がA~Dに示されている。このうち適切ではないものを一つ選択しなさい。
  - (a) 対象との対話とは、教材の内容を他者と話し合いながら理解するプロセスである。
  - (b) 自己との対話とは、自分自身と向き合い、内面の意味を再構成するプロセスである
  - (c) 自己との対話とは、自分の意見を強化するために自己の正しさを確信するプロセスである。
  - (d) 他者との対話とは友人との楽しいおしゃべりや会話、議論も含むが、重要なのは他者とのやり取りを通じて、自分の考えや理解が変わることである。
2. 下線部(イ)における学びの実践の中で行われる「対話」に関する文章が(a)~(d)に示されている。このうち適切なものを一つ選択しなさい。
  - (a) 対話は常に複数の人が参加する必要がある
  - (b) 対話は自己や他者に影響を与える有意義な相互作用を指す
  - (c) 対話は直接的なやり取りのみを指し、間接的な影響は含まれない
  - (d) 対話は情報の交換のみを目的とするコミュニケーションの一種である
3. 資料3において、アクティブラーニングの中で対話の相手になりうる他者として、(a)~(d)のうちあてはまらないものを一つ選択しなさい。
  - (a) クラスメイト
  - (b) ゲストスピーカーや外部の講師
  - (c) 異なる文化や背景を持つ生徒
  - (d) 自分の中のイメージとしての他者
4. 下線部(ウ)に示される「活動あって学びなし」とはどのような状態か。本文を踏まえて100字程度で説明しなさい。

### 問4

【資料4】の文章は、哲学者の戸田山和久の著書『教養の書』から抜粋した文章である。【資料1】から【資料4】を踏まえて、大学での学びとはどのようなものか、あなたの考えを600字から800字で述べなさい。

【配点】問1、問2、問3：合計150点 問4：150点 総計300点

## 資料の出典

### 【資料 1】

OECD 「OECD Future of Education and Skills 2030: OECD Learning Compass 2030」(2019)の一部  
[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/1-1-learning-compass/OECD\\_Learning\\_Compass\\_2030\\_Concept\\_Note\\_Series.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/1-1-learning-compass/OECD_Learning_Compass_2030_Concept_Note_Series.pdf)  
(2024年10月29日最終閲覧)

### 【資料 2】

#### 資料 2-A

日本財団「18歳意識調査」「第20回「社会や国に対する意識調査-」(2019)の一部  
[https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2019/11/wha\\_pro\\_eig\\_97.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2019/11/wha_pro_eig_97.pdf)  
(2024年10月29日最終閲覧)

#### 資料 2-B

ベネッセ総合研究所「第4回大学生の学習・生活実態調査報告書」(2021)の一部  
[https://benesse.jp/berd/up\\_images/research/daigaku\\_chousa\\_shukei\\_1-4.pdf](https://benesse.jp/berd/up_images/research/daigaku_chousa_shukei_1-4.pdf)  
(2024年10月29日最終閲覧)

### 【資料 3】

溝上慎一『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー』東信堂(2020)

### 【資料 4】

戸田山和久『教養の書』筑摩書房(2020)

聖心女子大学 2025(令和7)年度 一般選抜(総合小論文方式3月期) 問題

問1 【資料1】は、「特権」について論じた文章です。

1. 空欄  に入る可能性のある語として、適当でないものを (a) ~ (d) より1つ選び、記号で答えなさい。

- (a) 権力            (b) 上下            (c) 相互の            (d) 非対等な

2. 次の (a) ~ (e) の文のうち、【資料1】の内容に合致する場合は○で、合致しない場合は×で答えなさい。

- (a) 「特権」とは、財閥やエリート層などの限られた人だけが持つ権力のことである。  
(b) 「特権」は一部の人だけが享受するものではなく、このことは、人々の間で広く理解されている。  
(c) 機会さえ与えられれば、自分が享受する「特権」は、容易に発見できるものである。  
(d) 自分がマジョリティではない状況になったとき、自分が持つ「特権」に気付くことが多い。  
(e) 社会が変わることによって、今まで気付かなかった「特権」を発見することがある。

問2 【資料2】は、差別的意図なしに差別行為をする人について述べた文章です。【資料2】によると、そのような人に対してどのように対応を求めるべきか、40字程度で述べなさい。

問3 【資料3】は、ヨーロッパ評議会 (Council of Europe) という国際機構のウェブサイトに掲載されている複合的差別 (multiple discrimination) に関する記事です。【資料3】を読み、以下の設問に答えなさい。

1. 下線部①を日本語に訳しなさい。

2. 空欄  に入る語として適切なものを (a) ~ (d) より1つ選び、記号で答えなさい。

- (a) characteristics            (b) disadvantage            (c) society            (d) strength

3. 下線部③に関して、1995年の世界女性会議で議論された内容を50-80字程度の日本語で説明しなさい。

4. 下線部④に関して、障害を持つ女性が受ける可能性のある差別についての説明として、適切な場合には○で、適切でない場合には×で答えなさい。

- (a) 障害を持つ女性は、女性であることを理由とする差別と障害を理由とする差別のいずれも受ける可能性がある。  
(b) 同じ人物が、障害と性別など複数の理由による差別を同時に受けることはない。  
(c) 障害者であることを理由に差別を受けた者が、別の場所では、障害とは異なる理由で差別を受けることがある。

5. 連続的複合差別 (sequential multiple discrimination) と付加的複合差別 (additive multiple discrimination) の違いを50字程度の日本語で説明しなさい。

6. 【資料3】全体を参考にして、「複合的差別」の特徴を100字程度の日本語で説明しなさい。

問4【資料4】は、内閣府が公表した男女共同参画社会に関する資料から抜粋したものです。【資料4】に基づき、以下の問いに答えなさい。

1. 図1に示されている12の国のうち、管理的職業従事者に占める女性の割合が、男性よりも高い国を1つ選びなさい。
2. 図2は、「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」と「雇用者の共働き世帯」の数の推移を示している。「雇用者の共働き世帯」の数が、「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」の2倍を超えた年として正しいものを(a)から(d)より1つ選び、記号で答えなさい。  
(a) 昭和55(1980)年                      (b) 平成10(1998)年  
(c) 平成26(2014)年                      (d) 令和元(2019)年
3. 図1、2、3に基づき、夫婦の家事・育児の分担に関する説明として適切なものには○、不適切なものや図1、2、3からは判断できないものには×で答えなさい。  
(a) 日本の管理的職業従事者に占める女性の割合は、韓国に次いで低い。  
(b) 女性の管理的職業従事者の人数が最も少ないのは、韓国である。  
(c) 日本では、21世紀に入ると、雇用者である夫と無業の妻から成る世帯よりも、雇用者の共働き世帯が多くなっている。  
(d) 日本では、6歳未満の子どもを持つ夫婦では、家事育児関連時間に占める育児時間の割合は、男性のほうが高い。  
(e) 共働き世帯が増えると、育児にかかる時間の男女間の差は小さくなる。
4. 図4に基づき、男女間の地位の平等感について、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じている人の割合には、どのような特徴があるか、気付いたことを100字以内で述べなさい。

問5 差別しようという意図がないにもかかわらず差別行為が生じてしまう理由と、差別をなくしていくために必要な取り組みについて、【資料1】から【資料4】を踏まえて、あなたの考えを600～800字で述べなさい。

## 出典一覧

### 【資料 1】

キム・ジへ（尹怡景訳）『差別はたいてい悪意のない人がする一見えない排除に気づくための 10 章』（大月書店、2021）より抜粋。

### 【資料 2】

木村草太『「差別」のしくみ』（朝日新聞出版、2023）より抜粋。

### 【資料 3】

Council of Europe, Intersectionality and Multiple Discrimination,  
<<https://www.coe.int/en/web/gender-matters/intersectionality-and-multiple-discrimination>> (accessed 19 November 2024) より抜粋、一部表記を改変。

### 【資料 4】

内閣府男女共同参画局「ひとりひとりが幸せな社会のために—令和 2 年版データ」、<[https://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/pdf/panphlet\\_all.pdf](https://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/pdf/panphlet_all.pdf)>（最終アクセス：2024 年 11 月 19 日）より抜粋。